

私のゼミは、言語学・英語学を領域とします。ゼミでは、英語で書かれたテキストを精読しながら、言語にまつわるさまざまなテーマを考察します。今年度使用しているものは、E. M. Rickerson and Barry Hilton, eds. *The Five-Minute Linguist—Bite-sized Essays on Language and Languages*. (Second Edition. Equinox Publishing, 2012) で、各章が数ページからなる全 65 章の一般向け書籍です。毎回、少しずつ読み進めていきますが、これまで取り上げたテーマは、なぜ言語について学ぶのか、世界にはいくつの言語が存在するか、原初の言語はどんなものだったか、すべての言語は同じ起源を持つのか、リングア・フランカとは何か、文法の起源は何か、等々です。

言語を操る能力は人間を規定する重要な特質の一つです。われわれが使う言語とチンパンジーやイルカ等の動物が使う「言語」はまったく別次元のものです。人間は、創出したさまざまな文化を言語を介して仲間に伝えたり、世代を超えて伝承させたりできます。そのような人間に固有の言語を研究することによって、人間を、そして自分を知ることができるかもしれません。

また、この地球上には、日本語や英語を含めて、7,000 前後の言語が使用されていると言われます。中には、絶滅危惧種のような言語も数多くあります。いったんある言語が消滅すると、それを話していた人たちが築いた文化も永遠に失われてしまいます。その意味でも、言語と文化は切っても切れない関係にあります。

ゼミ生は、テキストの精読を通して、言語そのものに対する興味・関心を深め、そこから卒業研究のテーマを選ぶこととなります。英米文化学科のゼミですから、英語に関する研究が軸になりますが、英語を分析するためには、まず英語の仕組みをよく理解する必要があります。一見複雑に見える文でも、高校までに習った（はずの）構文やイディオム等を解きほぐすことによって、正確に読み取ることができるようになります。この少々時間のかかる作業を通して英語を読む力、考える力が鍛えられます。